

第2回 高知県地域公共交通活性化協議会 路面電車あり方検討会 議事概要

- 1 日時 令和7年9月5日（金）14：00～15：45
- 2 会場 高知共済会館 大ホール桜（会場・WEB併用方式）
- 3 出席 委員15名中15名（うちWEB出席2名、代理出席1名）
委員14名（西内会長、森本副会長、松岡副会長、熊谷委員、一色委員、片庭委員、弘瀬委員、村田委員、濱田委員、樋口委員、鈴木委員、坂本委員、中村委員、黒岩委員）
代理出席1名（国土交通省四国地方整備局 土佐国道事務所 服部副所長）
- 4 次第
 - (1) 開会
 - (2) 協議事項
現在の状況及び今後のスケジュールについて
 - ・委託事業者及び委託内容の決定について
 - ・調査方法について（路面電車、路面電車と他の公共交通モードの連携）
 - ・リ・デザイン分科会における検討状況について事例紹介
 - ・先進事例紹介（他県公共交通等）
 - ・四国の事例（補助事業活用事例含む）
 - (3) その他
次回の日程について
 - (4) 閉会
- 5 意見交換（主なもの）
 - 路面電車の歴史的な価値、収支状況、軌道状況等を考え、将来的に維持するのであれば、路線バスとの並走解消を考えないといけない。その場合、電車は幹線とし、支線はバスという発想が有用だと思う。
 - アンケート実施について、町内会、観光協会、商工会、旅行者など一定知見を有する団体などにも実施する必要があるのではないか。
 - 調査について、主要なハブ施設の乗り換え利便性の整理は、ハブ化にかかるハード面だけではなく、ソフト面でのハブ化にかかるコスト整理・比較という項目が必要になると思う。
 - 調査について、公共交通の潜在需要を掘り起こすための取り組み案を検討する場合、その実施に必要な経費、生み出される増収額の比較検討をやっていただきたい。
 - アンケート調査内容にある、『今後の利用意向、利用するための条件』については、利用者減少が予測される項目も質問する必要があるのではないか。利用者が不利になる問いも勇気をもってする必要がある。さもなくば、将来像は、はじめから絵に描いた餅となる。

- 昨今は運転手不足でバスの減便をせざるを得ない状況となっており、供給側の制約が大きくなっている。いくら需要を喚起しても『無い袖は振れない』状況になりかねない。
- 現在のときでん交通の強みの1つは、自前で修理が出来るところであるが、(車両のハイテク化等により)それが今後外注に頼らざるを得なくなると、維持管理費用の増加が気になる点である。
- 既存の設備・車両の老朽化により維持するためのコスト増が心配されるが、今後の調査でコスト分析は明らかになると思う。やはり利用してもらうには安全第一である。まずは安全確保をして、そのうえで利用者利便向上、需要確保といった流れになる。このあり方検討会での事業者、自治体での会話には意義がある。
- 今回の調査の主たる目的は『フォアキャスティング』的という言い方をする。過去からの実績や現在の状況をみながら、正しいデータを使った未来予測をして、きちんとした需要予測をやりたいというやり方。もう一方で『バックキャスティング』というやり方。それは、未来を決めて、“こういう未来にしたい”という夢を語って、そこをまず到着点にした場合に不足していることを議論するというもの。フォアキャスティングとバックキャスティングの2つがないと今回の議論は終着をしないと思う。
- 唯一の解決策ではないが、光を見いだせるところは、新規居住者やインバウンドを含む観光などの潜在需要だと思う。新しい需要を生み出す価値がどこにあるか、今回の調査で絞り出していきたい。
- 戦略的に落としどころをある程度考えて、半年後に合意が取れるところに向けて集中的に取り組むことが効率的だと感じる。
- 潜在需要調査などで分析される様々な可能性を否定せずに、描いた未来に向けて検討することに是非取り組みたい。